

中島ゆみ子と 仲間たち Vol.10



中島ゆみ子
Yumiko Nakajima
(ヴァイオリン)



小林 沙紀
Saki Kobayashi
(ヴァイオリン)



臼木 麻弥
Maya Usuki
(ヴァイオリン)



エリック・ウィリアムス
Erik Williams
(チェロ)



ステンハンマル弦楽四重奏団
Stenhammer Quartet
ペータ・オロフソン (1st ヴァイオリン)
ペール・エマン (2nd ヴァイオリン)
トニー・バウアー (ヴィオラ)
マッツ・オロフソン (チェロ)

～ Program ～

ブラームス:弦楽六重奏第1番 作品18

Brahms: Streichsextett op.18

メンデルスゾーン:弦楽八重奏 作品20

Mendelssohn: Oktett für Streichinstrumente op.20

2015 6/21 [日]

開場 6時40分 開演 7時

東京文化会館小ホール 上野駅公園口前

全自由席 前売: 3,500円 当日 4,000円/
学生: 2,500円

学生券のお取り扱いはお前売りのみ

- 主催 コリーナ・ヴェルデ・アンサンブル
- 後援・チケット販売
認定 NPO 法人おんがくの共同作業場
TEL 042-522-3943 <http://gmaweb.net/npo/>
東京ニューシティ管弦楽団
チケットダイヤル TEL 03-5933-3266
- チケット販売
東京文化会館チケットサービス
TEL 03-5685-0650
- 後援 スウェーデン大使館



中島ゆみ子 Yumiko Nakajima (ヴァイオリン・ヴィオラ)

上尾市在住。4歳からピアノを、7歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高校音楽科を経て、桐朋学園音楽学部ヴァイオリン科を卒業。その後、同大学研究科に進む。この間、ヴァイオリンを江藤俊哉、広瀬悦子の各氏に師事。1980年、東京文化会館主催「新進音楽家デビューコンサート」に合格しソリストとしてデビューした後、1992年まで毎年リサイタルを開催。1988年ヴィオッティ国際コンクール第3位入賞。1990年にはフランス、プラード音楽祭にてジャンジャック・カントロフに師事し高い評価を得、音楽祭の室内楽コンサートに出演。同年エンニオポリノコンクールで優勝。1990年より2年間イタリアのミラノに留学し、フェリーチェ・クザーノのもと更に研鑽を積む。1992年スレーザ国際コンクールの室内楽(二重奏)の部で優勝。ガラコンサートでのモーツァルトの演奏は、好評を博した。1993年帰国後、2001年まで東京フィルハーモニー交響楽団首席奏者を務める。現在独立し、ソロ、室内楽の演奏活動に力を入れる傍ら、長年の経験を生かし在京オーケストラのコンサートミストレス、客演首席として多方面で活躍中。近年ではスウェーデンでの演奏活動にも積極的に取り組んでいる。また「良い音楽を身近で」という目的で、「コリーナ・ヴェルデ・アンサンブル」を主宰している。彩カルテットメンバー、オラトリオ・シンフォニカ JAPAN コンサートミストレス。東京ニューシティ管弦楽団ゲストコンサートマスター。

ステンハンマル弦楽四重奏団 Stenhammer Quartet

2002年の結成以来、ステンハンマル弦楽四重奏団は北欧における最も優れた弦楽四重奏団の一つとして名声を博している。プログラムの中心を占めるのはもちろんヴィルヘルム・ステンハンマルの作品だが、ウィーン古典派の作品や現代音楽にも積極的に取り組んでいる。スヴェン=デイヴィッド・サンドシュトゥルムやペント・セーレンセン等、北欧の作曲家に定期的に新作を委嘱する一方、アメリカや英国の作曲家からも作品を献呈され、その初演を行っている。当四重奏団はスウェーデン放送のために約40作品を録音しており、2011年にはステンハンマル室内楽全曲コンサートに出演、その様子はスウェーデン放送によって録音された。またそれ以前の録音によりスウェーデンにおける「グラミス」賞にミネートされるなど、国内はもとより国際的にも高い評価を得ている。「ステンハンマル弦楽四重奏団の演奏には明瞭な伝達への深い愛情と情感の精密さが隅々まで浸透している」『ミュージック・ウェブ・インターナショナル』より)当四重奏団はフランスの音楽番組「メツォ」のドキュメンタリーに主題として取り上げられ、また2009年にはスウェーデン音楽への貢献により、スウェーデン王立音楽アカデミーより表彰を受けた。同年ロンドンにデビューし、その後も当地より度重なる招待を受けている。これまでにポーランドやデンマーク、アルジェリア等、多くの国の音楽祭に参加しており、近年ではスウェーデンのテレビにも出演している。(Vn.ペータ・オロフソン/Vn.ペール・エマン/Va.トニー・パウアー/Vc.マッツ・オロフソン)



エリック・ウィリアムス Erik Williams (チェロ)

スウェーデン系カナダ人として音楽一家に生まれ、カナダのモントリオールで音楽の初等教育を受ける。1995年、全額奨学金給付を得て、ストックホルムのロイヤル・アカデミー音楽大学にてオラ・カールソン氏に師事。同大学、大学院を首席で修了。その後、再び全額奨学金給付を得てロンドンのギルドホール音楽院に進みデイヴィッド・タケノ氏に師事。2002年同コース修了以降、ストックホルム、モントリオールなどにおいてめざましい活躍を続け、カナダ放送協会の協力によりモントリオール交響楽団と共演。スウェーデン放送交響楽団ではソリストも務め、又室内楽演奏が放映される。07年秋よりダニエル・ハーディング指揮のもとスウェーデン放送交響楽団のメンバーとして活躍。スウェーデン放送交響楽団とドヴォルザークのチェロ協奏曲を共演などソロ活動を続けている。



臼木 麻耶 Maya Usuki (ヴィオラ)

さいたま市出身。10歳よりヴァイオリンを始め、15歳でヴィオラに転向。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て同大学院修士課程を修了。在学中、室内楽定期演奏会や新卒業生演奏会等に出演。今までにヴァイオリンを守岡輝、浅井千裕、沢和樹、ヴィオラを故浅妻文樹、川崎和憲各氏に、室内楽を田中千香土、岡山潔、山口裕之の各氏に師事。在学中より結成された Alberi String Quartet は現在も活動を続けており、ベートーヴェンの室内楽作品全曲演奏会(90曲以上)を7年越しで完奏するなどテーマ性を持った活動を展開している。02年から07年までは安田弦楽四重奏団のヴィオラ奏者としても活動。現在、Alberi String Quartet、さくら弦楽四重奏団、彩弦楽四重奏団のメンバー。室内楽をはじめ、国内オーケストラのゲスト首席奏者等を務める。東京藝術大学弦楽科非常勤講師(ヴィオラ科助手)。



小林 沙紀 Saki Kobayashi (ヴァイオリン)

4歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部卒業、同学校研究科修了。日本クラシック音楽コンクール、大阪国際音楽コンクール、秋吉台音楽コンクールに入選、レ・スプレンドル音楽コンクール審査員特別賞受賞。大学時代は、室内楽やオーケストラに傾倒し、室内楽ではヴァイオリンとヴィオラを持ち替えながら、学内試験優秀者による桐朋学園大学室内楽演奏会などに出演。現在、フリーの演奏家として、オーケストラでの活動を中心に室内楽や後進の指導にもあたっている。これまでに、ヴァイオリンを、野口千代光、エドアルド・オクーン、加藤知子の各氏に、室内楽を、山口裕之、漆原啓子、藤原真理、クリスティアン・ギガー、金木博幸の各氏に師事。

